

【2月の演目】

一、ひと里

めいじ ぶんごういすみきょうかさくし きねや かつとうじきつきよく
明治の文豪泉鏡花作詞、杵屋勝東治作曲
さくひん かぐらざか まち ふうけい びしゃもんさま
の作品で、神楽坂の街の風景や毘沙門様
が曲中に唄われています。

一、梅は咲いたか

めいじじだい りゅうこう えど はうた
明治時代に流行した江戸端唄です。
かりゆうかい げいぎ きせつ はなばな かい
花柳界の芸妓たちを季節の花々や貝に
たと うた
例えて歌っています。

一、さわぎ

ざしきさんさ むかし えど
お座敷三下がりといって、昔から江戸のお
ざしき にぎ きよく
座敷にはかかせない賑やかな曲です。フィ
ナーレ曲として常に踊られています。

【3月の演目】

一、ひと里

めいじ ぶんごういすみきょうかさくし きねや かつとうじきつきよく
明治の文豪泉鏡花作詞、杵屋勝東治作曲
さくひん かぐらざか まち ふうけい びしゃもんさま
の作品で、神楽坂の街の風景や毘沙門様
きょくちゅう うた
が曲中に唄われています。

一、春は花

はうた はる はな きょうと かがい ふる
端唄「春は花」は、京都の花街で古くから
した ぶようきょく きょう しき はる
親しまれてきた舞踊曲「京の四季」の“春”に
いっせつ はる おとず ひとびと
あたる一節です。春の訪れとともに人々の
こころ う た じょうけい かる せんりつ
心が浮き立つ情景を、軽やかな旋律と
しゃだつ し えが だ
洒脱な詞で描き出しています。

一、さわぎ

ざしきさんさ むかし えど
お座敷三下がりといって、昔から江戸のお
ざしき にぎやか きょく
座敷にはかかせない賑やかな曲です。フィナ
一レ曲として常に踊られております。